

RouteMagic

RouteMagic Controller

MP200 / MP1200

RMC Version 2.2.2

リリースノート

- 2003/01 -



はじめに

本書の目的

- 本書は、RouteMagic Controller(以下 RMC と記述)上で稼動するソフトウェア・バージョン 2.2.2 に関して、バージョン 2.1.0 との機能的な相違点、および RMC 設置・運用上の留意事項などを中心に記述しています。RouteMagic 製品の仕様ならびに操作方法全般に関しては、「RouteMagic Controller 取扱説明書」「RouteMagic Controller MP1200 / MP200 ユーザーズ・ガイド Version 2.2」、および「RouteMagic Controller クイックリファレンス Version 2.2」をご参照ください。

本リリースの動作環境

RMC ソフトウェア Version2.2.2 は、RMC MP1200 および MP200 (Model 2) ハードウェア上で動作します。RMC Model 1 には未対応ですのでご注意ください。

RMS を利用する場合は、RMS (RouteMagic Server) Version 2.1 以上の環境が必要となります。

本書の対象読者

本書は、次の方を対象に記述されています。

- RMC のコマンドおよび操作性を理解されている方
- ネットワーク環境の設定に関して基礎的な知識のある方

関連ドキュメント

RMC には、本書の他に、次のドキュメントが用意されています。

- **RouteMagic Controller MP1200 / MP200 取扱説明書**
RMC の設置とネットワーク機器への接続に必要な情報を記載した、製品添付の説明書です。MP1200 版と MP200 版があります。
- **RouteMagic Controller クイックリファレンス**
RMC が提供するコマンドの機能を記述したハンドブックです。
- **RouteMagic Controller MP1200 / MP200 ユーザーズ・ガイド**
RMC をご利用いただくために必要な作業を中心に、RMC が提供する機能とその利用方法を説明しています。
- **RMC セットアップサーバ構築・運用ガイド**
多数の RMC を設置される場合の、一括セットアップ／バージョンアップに関して記述しています。

目次

1. ソフトウェア Version2.2 の変更点	1
1. 1 CAS(コンソールアクセスサーバ) としての機能強化	1
1. 2 RMC が送信するメールサブジェクトのカスタマイズ対応	1
1. 3 その他の変更	2
1. 4 Version 2.2 における制限事項	2
2. ソフトウェア Version 2.2.2 の変更点	4
2. 1 機能追加	4
2. 2 仕様変更	4
2. 3 不具合の修正	5
2. 4 その他の変更	5
3. Version 2.2.2 へのアップグレード	6
4. システム稼働環境	7
4. 1 シリアル端末／モデムからのログイン	7
4. 2 ネットワーク経由でのログイン	7
4. 3 動作確認済みモデム／ISDN ターミナルアダプタ	7
5. セキュリティに配慮した運用	8
5. 1 ユーザ名、パスワードの設定	8
5. 2 ssh(Secure SHell) の使用	8
5. 3 アクセス制限の設定	8
5. 4 送信メールの暗号化	8
6. マニュアル記載事項の訂正	9

1. ソフトウェア Version2.2 の変更点

RMC ソフトウェア Version2.2 では、従来の Version2.1 に対して下記の変更が行われています。なお、現在 Version2.0 をお使いの方は、Version2.1 においても大きな変更が行われていますので、そちらのリリースノートも併せて機能変更点をご確認ください。

旧ソフトウェアで稼働中の RMC を Version2.2 にアップグレードされる場合は、弊社ホームページより、必要なソフトウェアとマニュアルをダウンロードしてご使用ください。現在稼働している RMC のソフトウェアバージョンは、`show version` コマンドにより確認できます。

➡ 「2. Version 2.2.2 へのアップグレード」参照

1.1 CAS(コンソールアクセスサーバ) としての機能強化

RMC ソフトウェア Version2.2 は、各 COM ポートへの手動接続権限の有無を、ユーザ毎に指定可能になりました。また、一部コマンドの実行権限を見直すことで、RMC の特権モードに入ることなく監視対象装置の操作が可能になりました。具体的には下記の変更が行われています。

◆ `set [no] connect-users {user_name} [user_name]...`

各 COM ポートに対して、`connect` コマンドの実行権限を持つユーザを指定します。`set no connect-users` を実行した場合、すべてのユーザが `connect` 可能です(デフォルト設定)。

◆ `connect`

以前のバージョンと異なり、通常モード(非特権モード)での実行が可能になりました。その際、`set connect-users` コマンドによる実行制限が適用されます。

ただし、特権モードで本コマンドを実行する場合は、上記実行制限は適用されません。

◆ `show log, show mail, set prompt`

以前のバージョンと異なり、通常モード(非特権モード)での実行が可能になりました。

1.2 RMC が送信するメールサブジェクトのカスタマイズ対応

◆ `set [no] mail-subject {subject_type} {subject}`

RMC が送信するメールサブジェクトを任意の文字列にカスタマイズすることが可能になりました。また、サブジェクトには以下の特殊文字が使用可能です。詳細はクイックリファレンスをご参照ください。

%m:メールポート名
%n:メールカウント数
%b:set banner 文字列
%r:RMC host 名
%d:set description 文字列
%c:com ポート名

1.3 その他の変更

温度・ファン異常時の対応強化(RMC-MP1200)

CPU 温度異常、またはファン停止の際に、"RMC message"サブジェクトの警告メールを送信する機能を追加しました。また、set options autohalt コマンドを実行しておく、CPU 温度異常の際に自動シャットダウンを行います。

1.4 Version 2.2 における制限事項

RMC Version 2.2 では、以下のような機能的制限事項がありますのでご注意ください。

RMC-MP1200/200 共通

- set target-type custom されているポートに対して、script-test コマンドを実行した場合、その実行結果は show log comN には記録されません。また、set spy が設定されていても、spy の対象にはなりません。
- 通常モードで特権モード専用コマンドを実行した場合、V2.0 以前は "can't execute on normal mode." と表示されていましたが、V2.1 からは "command not found." と表示されます。
- Ver2.1 以降からのアップグレード手段は tftp のみとなります。Windows 版のアップデートは提供しておりません。
- DNS ではなく hosts データベースに対して登録されているドメイン宛にメールを送信することができません。この場合、メールのリレーホストを経由するか、IP アドレス直接指定でのメール送信を行ってください。
- USB-シリアルコンバータを使用して、RMC の COM ポートにログインしている場合、コンソールへの大量のテキストのペースト(貼り付け)が正常に動作しない場合があります。
- RMS から送信された定石コマンドメールの実行の際、実行時間が 20 分以上かかる場合はタイムアウトエラーとなります。

RMC-MP200

- set exec (COM2 をローカルコンソールとして設定)、または set modem (COM2 をモデム接続に設定) が行われている間は、当該ポートに対する spy の設定は無効になります。
spy の設定を有効にする場合は、set no exec / modem を実行し、ローカルコンソール/モデム接続の状態を解除してください。

RMC-MP1200

- VGA コンソール（DISPLAY ポートに接続）からログインした場合は、常に英語表示となります。
- ETH1 ポートはメンテナンス用ポートとなるため、以下の機能制限があります。
 - － 同一セグメント上のノードとの通信のみが可能です。
 - － set dhcp により、DHCP サーバからアドレスを取得することはできません。
 - － set address において、デフォルトゲートウェイを指定することはできません。
- IP アドレスの自動設定機能はサポートされていません。

2. ソフトウェア Version 2.2.2 の変更点

RMC ソフトウェア Version2.2.2 では、Version2.2.1 に対して以下の変更が行われています。

現在稼動している RMC のソフトウェアバージョンは、`show version` コマンドにより確認できます。

➡ 「3. Version 2.2.2 へのアップグレード」参照

2.1 機能追加

1. connect 時に、Ctrl-¥ t で透過モードに移行する機能を追加

透過モードは、端末-機器間での XMODEM でのファイル送受信の際などに使用されま
す。端末-機器のすべての送受信に対し、RMC はいっさいの変更を加えません。透過モ
ードを終了するには、端末から RMC へ BREAK 信号を送信します。（ただし、ssh 接
続時には RMC への BREAK 信号の送信が不可能なので、別セッションから disconnect
コマンドを実行する必要があります）

2. set options に引数を追加

set options に以下の引数を追加しました。

linemax=<100-950> : メール 1 行あたりの最大文字数。デフォルトは 250 文字。

disp=noip : LED/LCD での IP アドレス表示を抑制する

swlock : 前面スイッチ操作を無効にする

2.2 仕様変更

1. メールの 1 行あたりの最大文字数の変更

メールの 1 行あたりの最大文字数を 950 文字から 250 文字に変更されています。

2. 生存確認のタイミングの変更

起動後に最初に行う機器の生存確認のタイミングを早めました。

2.3 不具合の修正

RMC Version 2.2.2 で対応されている問題点は、以下のとおりです。

1. RMC にエラーメールが返送されてくると、m10 に対して "Target command error" という不適切なメールが送信される
2. (MP200)com2 に対して set exec/set modem および set network-info-time が同時に設定されている場合、"Target command error" という不適切なメールが送信される
3. (MP200)com2 が set exec/set modem されている場合、set spy target2 min の実行で内部エラーがでる
4. set mail-origin, set mail-relayhost の設定が再起動後に有効にならない場合がある
5. 機器のコンソールメッセージが '.' だけの行を含む場合、メール送信内容がそれ以降切れてしまう
6. Aterm(ISDN TA)での PPP メール発信が失敗する場合がある
7. (MP200)com2 が set exec/set modem されている場合でも、set target-check での死活監視が有効になっており、モデムが異常動作してしまう Aterm(ISDN TA)での PPP メール発信が失敗する場合がある
8. PPP 切断後、5 分間の PPP メール発信制限が有効になっていない

2.4 その他の変更

POP メール取得プログラム(fetchmail)のセキュリティーホール修正

詳細は以下の URL をご覧ください。

Debian Security Advisory

DSA-216-1 fetchmail -- buffer overflow

<http://www.debian.org/security/2002/dsa-216>

3. Version 2.2.2 へのアップグレード

RMC ソフトウェア Version2.2.2 は、RMC-MP1200 および MP200 (Model 2) ハードウェア上で稼働します。

アップグレード作業は tftp 経由で行います。Version 2.2.2 では、Windows 版のアップデータは提供されておられませんのでご注意ください。

なお、Version2.2.2 アップグレード用ソフトウェアは、RMC に搭載されているソフトウェアが Version2.0.2 またはそれ以降であることを前提としています。それ以前のバージョンのソフトウェアをご利用の場合は、まず、Version2.0.2 へのアップグレードを行った後、Version2.2.2 へのアップグレードを行ってください。

tftp 版 アップグレード

- ダウンロードしたアップデートファイルを tftp サーバに格納し、RMC 側から upgrade tftp コマンドを実行することにより、アップグレードを実行します。
- RMC から接続可能な tftp サーバを準備する必要があります。Windows の場合でも、フリーソフトの tftp サーバを利用することが出来ます。

バージョンアップに必要なソフトウェアは、ホームページから直接ダウンロードできます。バージョンアップに必要な手順等を記述した「RMC アップグレード手順書」もホームページからダウンロード可能ですので、詳細はこちらをご参照ください。

ホームページ: <http://www.routrek.co.jp/support/>

※アップグレード作業におけるご注意

- アップグレード時には以前のバージョンの設定が引き継がれますが、アップグレードの前に copy running-config terminal で表示される設定を別途記録しておくことをお勧めします。
- RMC ソフトウェア Version2.2 は、Model1 ハードウェアには対応していません。
- RMS(RouteMagic Server)をご利用になる場合、RMS Version2.1 以上が必要になります。

4. システム稼働環境

4.1 シリアル端末／モデムからのログイン

Window 標準添付のハイパーターミナルや、フリーソフトの Tera Term Pro などのターミナルソフトが必要です。また、Local Echo は OFF にしてください。

“Tera Term のホームページ”

<http://hp.vector.co.jp/authors/VA002416/>

Unix 系 OS の場合は、tip, minicom などのターミナルソフトをご使用下さい。

4.2 ネットワーク経由でのログイン

SSH1 または SSH2 プロトコル対応の ssh (Secure SHell)、又は telnet でログインします。Local Echo は OFF にしてください。

Windows の場合、Tera Term Pro + SSH Extension や PuTTY が SSH プロトコルに対応しています。

4.3 動作確認済みモデム／ISDN ターミナルアダプタ

RMC での動作を確認したモデムおよび ISDN ターミナルアダプタは以下の通りです。表中の“指定するモデム名”は、**set modem** コマンド実行時に必要な引数です。

■ アナログモデム

モデム機種名	指定するモデム名
株式会社アイ・オー・データ機器 DFML-560E	指定不要 (generic)
アイワ株式会社 PV-BF5606HM	指定不要 (generic)
株式会社 メルコ IGM-B56KS	指定不要 (generic)

■ ISDN ターミナルアダプタ

モデム機種名	指定するモデム名
日本電気株式会社 Aterm IT42	aterm
日本電気株式会社 Aterm ITX62	aterm

5. セキュリティに配慮した運用

セキュリティを重視する場合は、以下のような設定を行ってください。

5.1 ユーザ名、パスワードの設定

RMC のログインパスワードや特権パスワードを適切に設定・管理することが重要です。設定は、`set password`、`set enable-password` コマンドで行います。

また、RMC にログインする際のユーザ名(初期状態では"rnc")とは別の名前を用意しておく、不正ログインに対するセキュリティが向上します。変更は、`set username` コマンドで行います。その際、`set user-name2 rnc *` コマンドを実行し、デフォルトで用意されている"rnc"のユーザカウントを無効にしてください。

5.2 ssh(Secure SHell) の使用

ネットワーク経由でRMCにログインする場合、telnetではなくsshのご利用をおすすめします。RMCとターミナル間の通信が暗号化されるため、ネットワークの盗聴などに対するセキュリティが向上します。

また、ssh を使用する際は、telnet ログインを無効にしておくことをおすすめします。設定は `set access-list deny telnet 0.0.0.0` で行います。

5.3 アクセス制限の設定

RMC では telnet, ssh, smtp(メール受信), snmp, tftp の各プロトコルについて、特定の相手に限り接続を許可・不許可にすることができます(初期設定ではすべて許可)。

アクセス制限を行う場合、許可するアドレスを `set access-list allow {プロトコル名} {IP アドレス}` コマンドで登録後、それ以外のアドレスからの接続はすべて不許可 (`set access-list allow {プロトコル名} 0.0.0.0`) にすることをおすすめします。

例として、192.168.0.* からの ssh ログインだけを許可する場合、以下のコマンドを実行します。

```
set access-list allow ssh 192.168.0.0/24
set access-list deny ssh 0.0.0.0
```

5.4 送信メールの暗号化

RMC には PGP を使用して送信メールの暗号化と、受信メールの認証を行う機能があります。メールを暗号化するには、メールアドレスをキーとしたPGP 公開鍵を別途用意し、それを `set public-key` コマンドで RMC に設定する必要があります。その後、暗号化メールを送信するメールポートに対して `set mail-encryption` を実行すると、送信されるメールが暗号化されます。

なお、暗号化の有無はメールポート毎に設定できます。また、RMC から送信した暗号化メールを受け取るには、電子メールソフト(MUA)の側も PGP 暗号化メールに対応している必要があります。

6. マニュアル記載事項の訂正

RMC Version 2.1 マニュアルの記載事項に以下の誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

RMC-MP1200「取扱説明書」

- P50、 ” 商標とライセンス” 記載条項の追加

下記のライセンス条項が記載漏れとなっておりました。

net-snmp License

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000

Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California

All Rights Reserved

CMU AND THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA DISCLAIM ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF

MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL CMU OR THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Copyright (c) 2001-2002, Networks Associates Technology, Inc

All rights reserved.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions of this code are copyright (c) 2001-2002, Cambridge Broadband Ltd.

All rights reserved.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

製品に関するお問い合わせ

製品に関する技術的なご質問や、障害に関するお問い合わせは、下記にて電子メールまたはFAXでお受けしております。

ルートマジックサポートセンター

- 電子メール
support@rounrek.co.jp
- FAX
044-829-4362

また、弊社ホームページ上でも製品に関する最新情報をご案内しております。最新リリースのマニュアルも下記ホームページからダウンロードすることができますのでご参照ください。

ホームページ

<http://www.routrek.co.jp/>

Copyright©2003 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.
このマニュアルの著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。
このマニュアルの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。
このマニュアルの内容は、予告なく変更されることがあります。

商標について

ルートレック・ネットワークスのロゴおよび RoutedMagic は、株式会社 ルートレック・ネットワークスの登録商標です。
本書に記載されている製品名等の固有名詞は、各社の商標または登録商標です。



株式会社ルートレック・ネットワークス
〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-5-7 ニッセイ新溝ノロビル
Tel. 044-829-4361 Fax. 044-829-4362